

令和元年6月13日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03505

研究課題名(和文) 国際連携研究を土台とした生活者育成をめざすレッスン・スタディのモデル構築

研究課題名(英文) Lesson study model for responsible living based on international collaboration

研究代表者

貴志 倫子 (KISHI, Noriko)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：60346468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：1)レッスン・スタディ(LS)の動向把握，2)「責任ある暮らし」実現のための生活者に必要な能力の整理と32事例の授業分析，3)14カ国の家庭科研究者・実践者への調査に基づく学力や学習内容の特徴の分類，4)日本の家庭科の授業研究の重層的かつ多彩な実施形態の整理と諸外国の家庭科LSの把握を行った。さらに5)生活者育成のLSモデル提案およびその国際的検討として平成29年8月にアイルランド，スウェーデン，シンガポールの海外連携研究者を招聘して国際会議を開催し，6)生活者育成をめざす教師の授業力向上のためのLSについて論文投稿，日英版の国際会議報告書配布とweb作成により情報発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって，1)生活者育成を目的とする国際的なカリキュラムの最新情報を整理できた点，2)レッスン・スタディに着目し，教科・科目に共通するねらいやその達成度を具体的に検討できた点，3)各国共通の生活課題に対する授業力向上の方法論をもとにレッスン・スタディのモデルを精査できた点に学術的意義がある。

日本の比較教育研究は，諸外国の取り組みを吸収することに重きが置かれてきたが，本研究成果は，グローバルな視点に立ち，日本の良い部分を発信しつつ，他国からも学び双方向性をもって，子どもの生きる力を伸ばすという生活者育成の教科(家庭科)の国際連携を図り，教科研究の国際化を促した点に社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The following was done through this study. 1) To grasp trend of lesson studies, 2) to organize abilities necessary for consumers to realize "responsible living" and analyze 32 cases of Japanese lessons, 3) to conduct surveys of home economics professionals in 14 countries and analyze the characteristics of academic abilities and learning contents, 4) to organize a multi-layered and versatile embodiment of lesson studies in Japanese home economics and grasped situations in other countries. Furthermore, 5) as a proposal of a lesson study model for fostering of a responsible consumer and an international examination, an international conference was held in August 2017 by inviting experts in home economics education from Ireland, Sweden, and Singapore. With the aim of fostering responsible consumers, we have disseminated papers on lesson studies for improving the teaching skills of teachers, a Japanese-English version of the international conference report, and a web site.

研究分野：家庭科教育

キーワード：生活者育成 レッスン・スタディ 国際連携 責任ある暮らし 家庭科 授業改善

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 生活者育成教育の必要性和授業研究をととした国際連携の意義

持続可能な社会や消費市民社会の構築に向け、1990年代以降、UNESCO や OECD などを中心に生活に責任をもつ市民 (Responsible Citizen) の育成が求められている。国際的な教育課題であるこの生活者育成には、複眼的思考を育むことが不可欠であり、生活を包括的かつ批判的に学ぶ必要がある。日本の学校教育では、社会科や家庭科を中心に学習内容が設定されているが、とりわけ家庭科は、身近な家庭生活を学習対象とし、主体的な問題解決力を育むことをめざしており、生活者育成に向けて果たす役割は大きい。これまで家庭科に関する国際的な発信として日本家庭科教育学会編「Home Economics Education in Japan」発行を通じ、教育課程や学習指導要領、教科の歴史的背景と研究動向等がまとめられている。この中で、授業研究に関して、1970年代を中心に家庭科の主要な授業が紹介されているが、具体的な授業内容や過程、授業分析などは、十分には報告されていない。

#### (2) “レッスン・スタディ”として国外で関心が高まる日本の授業研究の特徴

1990年後半より、日本の授業研究は、米国をはじめ各国で“レッスン・スタディ”として大きな注目を集めている。ただし、取り上げられる授業は理数教育や語学関連の一部教科に偏重し、各教科独自の指導法の十分な国外発信には至っていない。家庭科に関する国内の授業研究は、実践記録や学習指導案など、多数の教育雑誌や書籍等を通して共有されており、半世紀以上の蓄積がある。一方、生活者育成に関し、授業による学習者の知識技能の獲得や、認識の定着をとらえた研究は、海外ではほとんど見られない。

#### (3) 日本の家庭科教育の独自性と課題

日本の家庭科は、個人・家族の生活から衣食住、保育、家庭経営、消費、環境まで、生活を総合的に捉えた学習内容を有し、かつ、小学校から高等学校まで男女必修科目である。内容の総合性と学校段階、学校種を問わず独立した必修科目を擁している点は、各国が注目する特徴である。

一方、国内動向に目を向けると必修単位の実質的な減少や授業時間数の減少、子どもの生活離れなど、深刻な問題も抱えている。単位や時数の減少は、研修機会に恵まれない非正規教員や臨時免許教員の増加をもたらしている。子どもの生活経験の変容や知識技能の不足から指導法の改善や校種を超えた連携の必要性、すなわちこれまでの授業のあり方の再考が、教師に求められている。国際連携研究により、日本の教育の良さと課題をとらえ、授業力向上のための効果的な授業研究のモデル開発を進めることは、こうした状況への対応となり得る。

### 2. 研究の目的

本研究では、グローバルな視野から責任ある生活者に必要な能力を明らかにするとともに、その生活者育成のためのカリキュラムと実践のためのレッスン・スタディのモデル構築を国際連携の下で実現することを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 世界のレッスン・スタディの動向の理論的探究

主に文献調査により、米国のレッスン・スタディを中心とした世界の授業研究の動向および、日本からの授業研究の情報発信に関わる状況を把握する。具体的には、英語文献を中心に資料収集を行い、レッスン・スタディとして日本から世界に向けて発信されている授業研究の特徴を教科横断的に精査する。さらに、各国の学習指導案の設計、授業交流、実践研究のプロセスについて、学習指導案の一定のフォーマットの有無や、情報の共有方法、授業省察の方法、授業実践における困難とその困難を解消する手立てについて調査する。以上を日本と比較し、日本の授業研究の良さや課題を明らかにする。

#### (2) “責任ある暮らし”実現に必要な生活者の能力の整理

主に文献調査により、EUを中心に提唱されている、持続可能な開発や倫理的、社会的に責任ある暮らしを実現するための生活者に必要な能力を明らかにする。EU、OECD、UNESCO等、各国や国際機関が提唱する教育目標と具体的な能力指標を調査し、持続可能な開発や倫理的、社会的に責任ある暮らしのためにどのような生活者育成が必要とされているかの視点から、家庭科教育に関連の深い能力を抜き出し、生活者育成のための能力として整理する。

#### (3) 日本と各国の家庭科カリキュラムの最新情報の収集・分析と教育課題の把握

日本を含む各国の生活者育成に関する最新のカリキュラムを収集、分析するとともに、授業の現状を批判的に検討し、教育課題を明らかにする。そのために連携研究者や研究協力者を得て、実際の授業の状況について聞き取り調査や授業参観を行う。日本について、研究メンバーの勤務地である東京都、福井県、愛知県、大阪府、愛媛県及び福岡県を中心に、海外について、各メンバーがこれまで携わってきた北米、欧州、アジアの各国に渡航または国際学会の機会や通信の利用により、状況把握を行う。

#### (4) 各国の授業研究の実際および日本からの情報発信に関する国際調査による検討

各国の生活者育成教育におけるレッスン・スタディの実施状況および日本の家庭科教育から発信すべき内容を検討するために、家庭科研究のキーパーソンを対象に行う質問紙調査票とインタビュー調査を実施する。具体的には、韓国大田で開催の国際家政学会他に参加し、各国研究者との交流をはかり、調査依頼および本調査を行う。時間の制約から大会期間中の実施が困難である場合、調査承諾のみ得て、後日スカイプ等を利用して実施する。授業研究の実際を含めた各国の教育課題と日本の家庭科における授業研究への関心について調査結果を分析する。

#### (5) 生活者育成のレッスン・スタディのモデル試作と国内外での実施およびその国際的検討

生活者育成の具体的かつ効果的な授業構成や方法論を検討して、レッスン・スタディを試行する。授業内容は、消費生活や環境への配慮を軸に、食生活や衣生活を考えるなど、研究成果をもとに各国で共通理解を図りやすい生活者育成の題材を選定する。国内の研究協力者（中等学校教員）の勤務校で授業記録を行う。

国際的に共有可能な、生活者育成の具体的かつ効果的な授業構成や方法論を明らかにするために、海外連携研究者を招聘して、日本と諸外国におけるレッスン・スタディの状況を共有するシンポジウム、および試行したレッスン・スタディに基づく、授業視聴と授業検討会のワークショップからなる国際会議を行い、レッスン・スタディのモデルを検証する。

#### (6) 生活者育成のためのレッスン・スタディモデルの構築と研究成果の国内外への発信

国際会議の内容をもとにレッスン・スタディのモデルを構築し、報告書や論文作成による情報発信を行う。海外連携研究者との連携によるレッスン・スタディを実施し、内容を協議する。以上の研究成果を著作物とWEB サイト作成によって情報発信する。

### 4. 研究成果

研究を通じ、次の6点を明らかにした。

#### (1) レッスン・スタディの動向把握と日本の家庭科における授業研究

日本の授業研究が各国でレッスン・スタディとして広まっていく中、日本独自の授業研究の定義の問い直しや授業理論の再検討が教科教育の立場から提起されていた。国外においては、現職教員がすぐに取り組みめるレッスン・スタディの手引書やWEB上での動画なども共有されるようになっていたが、生活者育成に直結する家庭科関連科目においてレッスン・スタディの事例や先行研究は見当たらなかった。

日本の家庭科の授業研究組織の特徴として、公私、各学校段階、地域から全国レベルまで、重層的形態かつテーマ選定から授業協議会、報告書の作成共有など多彩な方法で実施されていた。事例研究と公開授業担当者への聞き取り調査から、授業研究による教師の変容や授業改善の軌跡が認められた。組織的授業研究により、教員の研修機会が一定程度担保されていることや、教師の自主的授業研究が、授業改善に寄与していることを示した。

#### (2) 「責任ある暮らし」を実現するための生活者に必要な能力の整理

「責任ある暮らし」実現に必要な能力の整理として、DeSeCoのキー・コンピテンシーや「21世紀型能力」等を参考に、家庭科の汎用的能力を1.技能・技術の活用、2.知識・情報の活用、3.批判的思考・意思決定・問題解決的思考、4.コミュニケーション能力・協働する力、5.より良い生活を自律的に計画・活動する力として抽出した。全国規模の家庭科研究組織の報告書に掲載された授業32事例について、抽出した5つの能力との関連を分析した結果、授業研究に基づき工夫された家庭科の授業実践は、各学校段階に応じて発展的に5つの能力を育成することを目指したものであることが明らかとなった。

#### (3) 国内外の生活者育成に関するカリキュラム分析と教育課題の把握

アイルランド、フィンランド、イギリス、シンガポール、韓国等、欧米とアジア13カ国の家庭科関連科目の分析を行い、カリキュラムの特徴より、1.家族や家庭生活の内容を包括した知識や技術の習得と問題解決力育成を目指す型、2.食、消費、環境領域を中心とした実践的な知識、技術習得と市民育成を目指す型、3.主に食やテキスタイルをテクノロジーの視点から学ぶ型に分類できることを示した。

#### (4) 家庭科関連科目における授業研究の実際と日本の授業研究への関心

先述の13カ国の国際調査により、諸外国の家庭科では学習指導案や教材共有が大学や教育センターで行われていた。けれども、家庭科教師の協働によるレッスン・スタディは、調査対象13カ国中、米国の一部、アイルランド、イングランド、シンガポールを除き、ほとんど行われていなかった。調査対象者のレッスン・スタディへの関心はあり、日本の家庭科からの情報発信や国際連携が望まれていた。

#### (5) 生活者育成のレッスン・スタディのモデル試作と実施およびその国際的検討

家庭科の消費生活・環境に関する題材に関し、研究協力者（神澤志乃教諭）との2年間の継続的授業研究をもとに、生活者育成の具体的かつ効果的な授業構成や方法論を精査した。授業

構成については、明確な目標と評価の設定と問題解決的な題材の設定とともに、実践的体験を伴う教材選定の必要性を共有した。さらにレッスン・スタディの効果的な遂行にあたりメンバー間の協働性、平等性と研究の継続性を要素として見出した。

以上の成果をもとにして、平成 29 年 8 月にアイルランド、スウェーデン、シンガポールより海外連携研究者を招聘して家庭科のレッスン・スタディに関する国際会議を開催した。上記 3 カ国の招聘者とアメリカ、中国からの参加を含む家庭科教育の研究者と学校教育関係者 42 名が、責任ある暮らしのための生活者育成のあり方について協議し、授業研究を軸にした交流の基礎を築くことができた。第 1 部シンポジウムでは、日本を含む 4 カ国からの報告により、各国における生活者育成のための教育を改善する取り組みの多様な様相が明らかにされた。第 2 部ワークショップでは、1. のレッスン・スタディモデルの一部を体験的に行うため、消費生活や環境への配慮を軸に食品選択を行う題材を用い、DVD による授業視聴とその協議、意見交流活動を企画立案した。その結果、参加者からは国内外を問わず、レッスン・スタディ体験とともに協議内容の深まりへの高い満足感を得られた。提案したレッスン・スタディモデルは、題材の内容、手法とともに、各国のカリキュラム等の違いを超えて共通理解を図りながら授業の評価と改善の手立てを具体的に交流できるものであることが示された。

#### (6) 生活者育成をめざす教師の授業力向上のためのレッスン・スタディのモデルの提案と発信

平成 29 年度実施の国際会議の成果と課題を報告書として平成 30 年 3 月にまとめ、会議に招聘した研究者・実践者や各国研究者と共有し、レッスン・スタディのモデルの汎用性について国際的な検討を加えた。平成 30 年 9 月にアイルランドの海外連携研究者 Dr. キャサリン・マクスウィニ他、セントアンジェラス大学教育学部スタッフとの情報交換とヒアリング、授業視察を行い、当地においてレッスン・スタディが進展しつつあることを確認した。同年 9 月中国浙江省の大成小学校において、授業参観、授業協議会を行い、レッスン・スタディの有効性が研究者、実践者間で共有された。

日本と各国とのレッスン・スタディをとおした交流をもとに、国際的に共有可能な、生活者育成の具体的なかつ効果的な授業構成や方法論を検討し、研究成果を論文にまとめるとともに、web サイト作成によって国内外への情報発信を行い生活者育成の教育における授業研究のプラットフォームづくりをすすめた。

### 5. 主な発表論文等

#### 〔雑誌論文〕(計 4 件)

荒井 紀子、高等学校家庭科で育てたい資質・能力と探究的な学びのデザイン、中等教育資料、査読無、No.989、2018、46-49

Noriko KISHI, Noriko ARAI, Rie IMOTO, Yuko KAMEI, Yuko HANE, Reiko ISSHIKI, Mayuko SUZUKI, Shino KANZAWA, A Study of Japanese Lesson Study in Home Economics, International Journal of Home Economics, 査読有、10(2),2017、86-98

荒井 紀子、諸外国の家庭科 - 全体の概論、家庭科、査読無、第 1 号、2015、11-16

荒井 紀子、高等学校学習指導要領実施上の課題とその改善(家庭)、中等教育資料、査読無、2015、22-27

#### 〔学会発表〕(計 15 件)

Noriko KISHI, The role of advisers in home economics lesson studies: A case study of group training in an education center, The20th Biennial international congress of the Asia Regional Association for Home Economics, 2019

貴志 倫子、家庭科における授業協議会の過程分析：教育センターにおけるグループ研修型の授業研究を事例に、日本家庭科教育学会九州地区会、2018

羽根 裕子, 荒井 紀子, 貴志 倫子, 一色 玲子, 井元 りえ, 亀井 佑子, 鈴木 真由子, 神澤 志乃、家庭科レッスン・スタディをテーマとした国際会議の成果と課題 協議と共有による国際交流の可能性を視点として、日本家庭科教育学会第 61 回大会、2018

神澤 志乃, 荒井 紀子, 貴志 倫子, 鈴木 真由子, 井元 りえ, 一色 玲子, 亀井 佑子, 羽根 裕子、レッスン・スタディによる生活者育成のための探究型授業の開発：消費生活に視点をあてて、日本家庭科教育学会例会、2018

一色 玲子, 神澤 志乃, 荒井 紀子, 貴志 倫子, 井元 りえ, 亀井 佑子, 鈴木 真由子, 羽根 裕子、家庭科研究グループによる授業研究と教師の変容、日本家庭科教育学会第 60 回大会、2017

貴志 倫子、発話分析からみた家庭科の授業づくりにおけるグループ協議の意義：教育センター研修型の授業研究を事例に、日本家庭科教育学会九州地区会、2017

Mayuko SUZUKI, Noriko KISHI, Noriko ARAI, Yuko HANE, Rie IMOTO, Reiko ISSHIKI, Shino KANZAWA, Yuko KAMEI, A Lesson Study Model Proposed for Home Economics Education, The19th Biennial international congress of the Asia Regional Association for Home Economics, 2017

井元 りえ, 荒井 紀子, 一色 玲子, 亀井 佑子, 神澤 志乃, 貴志 倫子, 鈴木 真由子, 羽根 裕子、イングランドにおける「レッスン・スタディ」の動向-ロンドンの教育委員会及

び中等学校の食関連授業などの事例研究を基に - , 日本家庭科教育学会第 59 回大会, 2016

Noriko ARAI, Noriko KISHI, Rie IMOTO, Yuko HANE, Reiko ISSHIKI, Yuko KAMEI, Shino KANZAWA, Mayuko SUZUKI, Comparative Analysis of Current Home Economics Curriculums Worldwide: Focusing on Competencies and Peer Learning System among Teachers, the 23rd IFHE World Congress, 2016

Rie IMOTO, Yuko HANE, Yuko KAMEI, Shino KANZAWA, Noriko KISHI, Noriko ARAI, Reiko ISSHIKI, Mayuko SUZUKI, General Academic Ability Fostered by Home Economics Lessons Developed in 'lesson study': Evidence from Elementary, Junior High, and High School Reports, the 23rd IFHE World Congress, 2016

Noriko KISHI, Mayuko SUZUKI, Noriko ARAI, Yuko HANE, Rie IMOTO, Reiko ISSHIKI, Yuko KAMEI, Shino KANZAWA, How Japanese Teachers Improve their Teaching Skills through Lesson Study: A Case Study of Home Economics Education in Fukuoka, the 23rd IFHE World Congress, 2016

Mayuko SUZUKI, Noriko KISHI, Noriko ARAI, Yuko HANE, Rie IMOTO, Reiko ISSHIKI, Shino KANZAWA, Yuko KAMEI, Lesson improvement through lesson studies and effects of improvements: Ideas for cooking practice emphasizing language activities, the 23rd IFHE World Congress, 2016

貴志 倫子, 荒井 紀子, 一色 玲子, 井元 りえ, 亀井 佑子, 鈴木 真由子, 羽根 裕子, 神澤 志乃, グローバルな視野で世界の家庭科をつなぐ: レッスン・スタディを中心とした日本からの発信と交流, 日本家庭科教育学会例会, 2016

Noriko KISHI, Noriko ARAI, Rie IMOTO, Yuko KAMEI, Yuko HANE, Reiko ISSHIKI, Mayuko SUZUKI, Shino KANZAWA, CHARACTERISTICS OF JAPANESE LESSON STUDY IN HOME ECONOMICS: A SURVEY ON TYPES AND METHODS, The 18th Biennial international congress of the Asia Regional Association for Home Economics, 2015

一色 玲子, 荒井 紀子, 貴志 倫子, 井元 りえ, 亀井 佑子, 鈴木 真由子, 羽根 裕子, 神澤 志乃, 「レッスン・スタディ」の国際的動向と日本における家庭科の授業研究, 日本家庭科教育学会第 58 回大会, 2015

#### 〔図書〕(計 3 件)

日本家庭科教育学会編, 未来の生活をつくる: 家庭科で育む生活リテラシー 明治図書, 2019, 143 ( 貴志 倫子, 84-89, 鈴木 真由子, 128-133 )

日本家庭科教育学会中国地区会, アクティブラーニングを活かした家庭科の授業開発, 教育図書, 2017, 160 ( 一色 玲子, 62-73 )

大学家庭科教育研究会編, 市民社会をひらく家庭科, ドメス出版, 2015, 214 ( 荒井 紀子, 8-27 )

#### 〔その他〕

Toward Quality Improvement in Home Economics Education: Bridging Japan and the world through perspectives on lesson study, 2018 (59 pages)

家庭科の質的向上を目指して: レッスン・スタディを視点として日本と世界をつなぐ, 2018 (全 64 頁)

ホームページ URL= [http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~kaseika/kishin/kaken\\_index.html](http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~kaseika/kishin/kaken_index.html)

日本と世界をつなぐ家庭科のレッスン・スタディ ~ 環境や未来に責任をもつ生活者の育成をめざして (URLは, 2020年11月以降, サーバー移行のため変更予定)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

荒井 紀子 (ARAI, Noriko)・大阪体育大学・教育学部・特任教授・90212597

井元 りえ (IMOTO, Rie)・女子栄養大学・栄養学部・教授・30412612

亀井 佑子 (KAMEI, Yuko)・愛国学院短期大学・家政科・教授・90557331

鈴木 真由子 (SUZUKI, Mayuko)・大阪教育大学・教育学部・教授・60241197

羽根 裕子 (HANE, Yuko)・名古屋文化短期大学・専攻科・教授・00748098

一色 玲子 (ISSHIKI, Reiko)・島根大学・教育学部・客員研究員・30582241

### (2) 研究協力者

神澤 志乃 (KANZAWA, Shino)

科研費による研究は, 研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため, 研究の実施や研究成果の公表等については, 国の要請等に基づくものではなく, その研究成果に関する見解や責任は, 研究者個人に帰属されます。